

昭和四十二年六月招集

第二面市議定例會會議錄(第一号)



館山市議会第二回定例会会議録(第一号)

昭和四十三年六月招集

一 六月十七日(月曜日)

一 現在議員三十名でその氏名次のとおり

一番 吉田勇右郎

二番 石井輝久

三番 嶋田石蔵

四番 伊賀多朗

五番 藤田益治

六番 磯辺博

七番 白熊盛太郎

八番 黒川正

九番 三幣勇

一〇番 西村真次

一一番 菊井敏博

一二番 小柴孝

一三番 山田教宇

一四番 遠山ヨネ子

一五番 石井正

一六番 五十嵐昇

一七番 江田徳太郎

一八番 安西益男

一九番 島野茂樹郎

二〇番 中村省吾

二番 関 武夫 二番 小澤恵太郎

二三番 飯田義男 二四番 田中祿郎

二五番 田村源治郎 二六番 秋山六三郎

二七番 安沢徳順 二八番 望月照正

二九番 鈴木市蔵 三〇番 山口 康

一 議事日程(第一号)

報告第一号 我団法人館山市開発公社の経営状況説明書提出について

報告第二号 昭和四十二年年度館山市繰越明許費繰越計算書の報告

報告第三号 昭和四十二年年度館山市繰越費繰越計算書の報告

報告第四号 昭和四十二年年度館山市継続費繰越計算書の報告

第二議案第五号 千葉県旧市町村職員恩給組合財産管理組合規約の一部を改正する規約について

千葉県旧市町村職員恩給組合財産管理組合規約の一部を改正する規約について

第三議案第五一号 千葉県下市町村の軽自動車税の賦課徴収に関する

事務を行なう職員が共同設置規約の一部を改正



する規約の制定について

第四議案第五号 昭和四十三年六月に支給する期末手当の特例に関する  
条例の制定について

第五議案第五号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に  
関する条例の一部を改正する条例の制定について

第六議案第五号 千葉県競輪組合の設置に関する協議について

第七議案第五号 館山市印鑑条例の一部を改正する条例の制定に  
ついて

第八議案第五号 館山市公立学校の学校医・学校歯科医及び学校薬  
劑師の公務災害補償に関する条例の一部を改正  
する条例の制定について

第九議案第五号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例  
の制定について

第十議案第五号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第一号)

第二議案第九号 昭和四十三年年度 館山市館山ユースホステル特別会計補正

予算(第一号)

一 法第百二十一条による出席説明員

市長 本間 譲

助役 畠山 傳

収入役 高木 哲三

秘書課長 小倉 澄男

人事課長 小沢 正治

企画課長 谷貝 茂生

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 宏治

市民課長 羽山 房雄

調査課長 石渡 東

収納課長 横溝 功

農林水産課長	伊藤 幸太郎
商工観光課長	山田 俊康
土木課長	飯田 治男
建築課長	池田 春雄
衛生施設課長	大嶋 重義
保健衛生課長	綱島 憲治
福祉事務所長	池田 亮山
教育課長	押本 禧逸
教委庶務課長	干場 伊右門
学校教育課長	遠藤 一郎
社会教育課長	源間 利一
消防課長	星野 清之助
消防本部次長	岩田 実
警務管理委員会書記長	鈴木 力

監査委員事務局長

館石勘治

農業委員事務局長

島山市治郎

診療所事務局長

野中圭太郎

市民セラー館長

太田博雄

一本議會事務局長 局長補佐 書記及公取員

事務局 長

高梨清一

事務局 長補佐

高尾豊

書記

矢藤恭一

同

香藤武男

同

庄司徹

同

錦藏睦子

取員

島田守

一出席議員 三十名

一欠席議員 町し

午前十時五分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日出席議員数 二十七名

ニより第二回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査の必要上、地方自治法第百三十一条の規定による出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木収、役小倉課長、右貝課長、小沢課長、山田課長、山口課長、長谷川課長、池田課長、飯田課長、伊藤課長、羽山課長、石渡課長、横溝課長、池田所長、大嶋課長、綱島課長、大田館長、鈴木書記長、館石局長、畠山局長、星野消防長、岩田署長、野中事務長、押本教育長、干場課長、遠藤課長、源間課長、以上の者が出席する旨の報告がありました。

議案を配付いたさせました。

議案の配付願はございせんか。——なしと認めます。  
会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に一、番議員 西村真次君  
二、番議員 小澤恵太郎君 以上両君を指名いたしま  
す。——いに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。——よ、決定  
いたしました。

会期、決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議長會、常協議會の意見  
は本六月十七日より六月二十二日まで、六日間といふこ  
とであります。

おはかりいたします。

会期を六日間と定めます。ことに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よて会期は六月十七日より六月二十二日まで、六日間と決定いたします。暫時休憩いたします。

午前十時八分

休憩

午前十一時三十分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
こゝ際おはかりいたします。

季節もおおいと暑の候となりますので、当分の間略衣により、会議を行ないたいと思ひます。

こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって決ま

した。

なお申し上げます。本会議場において議席を離れるこ  
とは自粛を願います。

監査委員より五月実施の監査の結果が報告されてお  
ります。

それからお手もとに配付の印刷書により御了承願います。  
本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。  
こゝより本定例会の案件につき市長の説明を求めます。

（市長 登壇）

市長（本間謙君）本日六月定例市議会を招集いたし

御審議をわづらわれます。諸議案は報告関係で四

件、一般議案で八件、予算関係で二件であります。

まず報告関係では財団法人熊山市開発公社の経営



状況説明書の提出であります。これは市が開発公社に出資または損失補償をいたしている関係から法で規定によりその経営状況について説明する書類を議会に報告し、こゝら経営の適正な執行を期せんとするものであります。

次に芳南中学校校舎建築にかかわる繰り越し明許費、繰り越し計算書の報告であります。これは前年度歳出予算経費のうち、その予算成立後、事由に基づき、その年度内にその支出を終らぬ見込みから繰り越し明許費といたわけでございます。

次に繰り越し計算書の報告につきまして、市民センター建設事業及び南部簡易水道事業にかかわる継続費の毎会計年度、年割額にかかわる経費のうち、その年度内に支出を終らなかつたものについて、翌年度に

備次録に越して使用しようというもので、法の規定するところにより、それぞれ報告するものがあります。

次に人事関係といたしまして公立学校や学校医等に対する公務災害補償に関する条例の一部改正であります。これは国家公務員の災害補償制度の確立に伴い、学校医の公務災害補償制度を改善して従来より打ち切り補償を廃止し、負傷、疾病が治癒するまで療養補償、休業補償を継続する事項をさらにまた第一種第二種と區別していた障害補償を年金または一時金に改め支給の範囲額、補償基礎額を引き上げ等を改正して公務による災害に対しその身分補償をはかろうとするものがあります。

次に非常勤の特別職にかかわる報酬等の条例一部改正であります。今回国会議員選挙等の執行経費の

基準に関する法律の一部改正に伴い選挙執行にかかわる投票及び開票立会人等報酬について一部改正をする必要があります。これは条例の一部改正をしようというものであります。その他人事関係といたしまして六月に支給します期末手当の特例に関する条例であります。

次に広域行政の一環として一部組合に関するものとして千葉県競輪組合の設置に関する協議であります。従来本市が加入していた八市競輪組合を本年十二月三十一日をもって解散して新たに十九市による自転車競技に関する事務共同処理について規約により一部事務組合を設置して昭和四十四年一月一日から施行して、こうとするものであります。

このほか業務の増加に伴い事務場所を増設による。

軽自動車税、賦課徴収に関する職員、共同設置規約の一部改正と共済組合法の施行の際、同法の施行前に恩給組合を施行していた市町村職員で共済組合の組合員となつたものとして生ずる追加経費にかかわる条文の整理並びに加入構成団体の一部改正をしようとする旧市町村恩給組合資産管理組合規約の一部改正などの協議があります。

次に国民健康保険税条例の一部改正であります。地方税法等の一部改正に伴い課税にかかわる所得割額、資産割額、被保険者均等割額、世帯平等割額を率、または額を条例の上で明確にし、合わせて国保税の軽減について被保険者一人当りの所得控除を従来より四万円を四万五千円に引き上げ負担の軽減をはかろうとするものであります。

その他住民基本台帳法の施行に伴って、印鑑条例の一部改正であります。

次に予算関係としまして一般会計の補正または予スホス  
テル会計の補正があります。が一般会計の補正としまして総  
務費関係では近隣町村を対象にした広域行政調査、

その他の経費として三十万、市史編纂費にかかわるもの、二  
十二万八千円、結婚相談所にかかわるもの、九十万九千円、民  
生費、青少年健全育成のために新宿八幡地区二カ所  
を予定した児童遊園地で五十万、スポーツ少年団本部  
補助金四十万円、衛生費、尿処理費で浄化薬品購入  
費七十四万円、土木費では公園整備事業に関する

くじく園施設工事、鳥類購入費が四百五十八万五千円、  
教育費では小学校関係で那古小の照明四十万  
館山小、便所新設、船形小、土盛り工事で三十七万円

中学校関係では、二中講堂二階改築工事二十万円  
以上追加額は六百三十八万二千円となります。

この財源としては、国果の補助百五十五万他を一般財  
源をもつて補正しようというものであります。

なお特別会計のユースホステルにつきましては、炊事場及  
び便所改修工事として六十五万円を前年度繰り  
越し金より充当しようというものであります。

なおこの会期中に人権擁護委員一名の者が死した  
関係から、その後任者の推薦をいたしたく存します。  
ので、御同意をいただきたいと思つた次第であります。  
以上本定例会におきます提出議案につきまゝ、その概  
要を申し上げました次第であります。が、いづれも急  
施を要する案件でございます。それゆゑにつきま  
しては関係課長より詳細な説明をいたさせますので



慎重な御審議をたまたまりますようお願い申し上げます。  
（拍手）

議長（吉田勇治郎君）以上により市長の説明を終ります。  
この際日程第一報告案件につき朗読を省略ただちに  
説明を求めます。

企画課長（谷貝茂生君）報告第一号財団法人館山市開発  
公社の経営状況説明書の提出について内容につきま  
して御説明申し上げます。

地方自治法の定めるところによりまして館山市開発公  
社の経営状況についてまいります。四十二年年度の事業  
につきまゝて概略の内容が決算書九ページに経  
営の概況でございますが、この公社は四十一年三月に  
発足いたしまして四十一年度は市民センター用地として  
いわゆる公共用地の取得のみでございますが、四十二年度に

おきましては十月三十一日に宅地建物を取り引き業の正式免許を受けましたので、公共用地以外のものをとおびらにやることになりましたので、測候所の公務員宿舎用地一五九七平方メートルの買収、造成、分譲、またその付近の土地一六七六平方メートルの買収、それから林時計工作所工場用地、これは用地買収の委託を受けまして二〇三三平方メートルの買収が成立いたしましたので、目下埋め立て中であります。

市民センター造成事業の残り分を扱いますこと、北条小学校幼稚園の四一九八三平方メートルを予定しまして、そのうち四十二年で売買契約の締結を完了しまして、そののが一八五九一平方メートルでございまして、最初の事業の予定量より大幅に縮小いたしましたのは、買収の交渉が難航しまして遅延したということでございます。



それからこの事業をこれだけのものを実施いたしましてたことについて  
てのページからの決算でございます。

収益的収入の部におきまして二千四百五十五万二千八百五十九円、  
この内訳につきましてはまず土地買却収入五百六十三万、  
手数料なり、預金利子は定期預金と普通預金の利子  
でございます。その他おもしろなものといまして借入金、こ  
れは借入金を起債というふうな形でもつておるわけで  
ございますが、このうちを借り入れて地主に払っております  
支出の面でございますが、おもしろものは、給料と諸手当でござ  
います。以下細かい事務用品につきましては説明欄  
によつてごらんいただきたいと思います。

事業の予算より大幅に縮小いたしましてたものは、北条小  
学校の用地買収の事業が相当遅れておつたということと  
それから富士デューゼルのところにありますた用地を市の公

社で買収して扱うという予定でございましたが、この市で直接買ったために扱わなかったというのが事業の縮小のおもな理由でございます。おもな要点は以上でございますが従いまして四十三年度は七ページにございますが貸借対照表の中に一応買入れとして土地処分できないものを持っておりますもの、費用は、これが今後入るものと仮定しまして純利益が五十二万九千十六円ということに相なっております。それから四十三年度の事業計画及び予算書でございます。四十三年度の予算は一応公営事業法の規定するところにならしまして事業会計予算と予算説明書と二つに分けてまいって作りました。

まず第一条は開発公社事業会計予算は以下定めるところによる。

第二条として業務の予定量でございますが、開発事業と

いまして企業立地に関する用地取得並に造成五〇〇八平方メートル、企業団地造成用地取得造成一四五四六平方メートル、分譲宅地団地用地取得造成三三〇五八平方メートル

それから委託事業につきましてもは市民センターの隣接にありまして用地三〇四一平方メートルを今後とも買収したい。

北条小学校の用地取得並に造成でございますが、四四九六〇平方メートル、約一万三千坪になると思いますが、飲食センターの用地の取得造成三三〇六平方メートル、教育センターの用地取得造成八六〇平方メートル合計五二一六七平方メートルの事業を予定しております。

次に二ページでございますが、収入支出の予定額は収入面におきまして二億六千三百三十万、これは金を借りたり、また借りかえという面からプラスされてきますので、額がふえ

ております。

第四条の事業債でございますが、一億七千五百四十万九千円一応限度額として予定しております。

第五条一時借入金う限度額は六千万歳計現金う不足を補うために一時的に借りるというわけでございます。

六条は流用禁止規定でございます。なお予算計画書の細かい説明欄でございますが、これは最後の説明欄によつて御了承いただきます。以下でございますが、御質問によつてお答えいたしたいと思います。

議長（吉田勇治郎君）報告第二号についての説明を求めます。  
 教育委員会庶務課長（干場伊右衛門君）報告第二号昭和四十二年度館山市繰り越し明許費繰り越し計算書の報告によつて御説明申し上げます。

国々財政繰り延べ方針に基きまして果からう要請があり

まして今年三月の定例市議会においてお願いいたしました  
房南中学校の改築工事の繰り越し明許費でございます  
が、これは四十二年度中に収入支出ともなく金額昭和四十  
三年度に繰り越しをいたしました次第でございます。

その繰り越し額は二千四十万円でございまして、この財源内  
訳は国庫補助としまして五百十九万九千円、地方債が一  
千万円、一般財源としまして五百二十万一千円でございませ  
う。よくも願っています。

議長（吉田勇治郎君）報告第三号について説明を求めます。  
市民センター館長（太田博雄君）報告第三号について御説明申し  
上げます。

先ほど市長の提案説明の中にありましたとおり、地方自治法  
施行令第百四十五条第一項の規定と申しますのは、繰り  
越しをいたしましたものは五月三十一日までには計算

書を作って次の議会に報告するという規定でございます。

市民センター建設事業といたしまして二億千八十三万円の総予算をもちまして継続費が設定されておったわけでありまして、四十一年度におきましては一億千七百五十八万円を昨年六月定例市会におきまして報告承認をいただきまして四十一年度繰次繰り越し額千五百一十三万円と合わせまして一億三千二百五十九万三千円が四十一年度継続費の合計となるわけでございます。このうち昭和四十一年度中に支出された額が一億三千二百五十一万、残額八万三千円を四十一年度、四十三年度に繰次繰り越しするという報告でございます。以上で報告第三号の説明を終わります。

議長（吉田勇治郎君）報告第四号について説明を求めます。

衛生施設課長（大嶋重義君）報告第四号について、説明を申し  
上げます。

報告第四号は報告第三号と同様に継続費の繰り越しを  
いたしたものでございますが、南部簡易水道事業におき  
ましては昭和四十二年度、四十三年度の二カ年継続事業と  
いたしまして、継続費の総額一億六千八百二十円、継続費  
を設定いただいております。そのうち四十二年  
度におきまして八千五百三十五万二千円の予算をもつて  
仕事を始めたわけでございますが、中途におきまして国の  
財政繰り延べの関係がございまして、この関係のものか  
事業として未執行になりまして、二千七百七万四千円が残  
額となりまして、これが翌年度に繰次繰り越しをい  
たすことになったわけでございます。

その内訳につきましては繰り越し金で四百九十七万四千円、国

県支出金が九百十万円 起債におきまして 千三百万円の  
誤でございます。

議長（吉田勇治郎君）説明を終りました。

本報告案件に対する御質疑を求めます。

御質疑ございませんか。――なしと認めます。

次に進みます。

この際御報告申し上げます。

監査委員より、今月実施の監査の結果が報告されてお  
ります。

それでお手もとに配付の印刷書により御了承願います。  
午前の会議はこゝにて休憩いたします。

午後は一時再開いたします。

午前十時五十九分 休憩



午後一時十五分 再開

議長(吉田勇治郎君) 午後出席議員数 二十四名

休憩前に引き続き会議を開きます。

この際議事にしておはかりいたします。

日程第二議案第五十号から日程第十一議案第五十九号まで、  
各議案はまず内容説明を行ない、この説明が終った  
のちに第五十号議案より逐次審議を行ないたいと思  
います。 ことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決まりました。  
日程第二議案第五十号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十号 千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理

理組合規約の一部を改正する規約の制定  
について

人事課長（小沢正治君）議案第五十号について御説明申し上げ  
ます。

本案は昭和三十七年の九月に法律第一五二号をもちまして  
地方公務員等共済組合法という法律の施行に伴いま  
して従前ございました市町村職員共済制度を一本化  
することになったのでございます。その際に釧路市等十  
葉県下の大多数の市町村で組織しておりまして職員共  
済組合というものがあつたわけでございますが、この共済組合も  
新しい共済組合法に基いて吸収統合するということとは非  
常に困難でございまして、これを吸収することはできなかった  
わけでございます。それで元の共済組合はその資産を  
自後管理するということとで従前共済組合加入市町村

で資産管理を行なつて参つておるわけでございます。

この資産管理組合の職員、長期給付に關しまする新しい法律上の共有の負担を市町村が行なわなければならぬ増加費用という部分があるわけでございますが、その費用は直接市町村が負担しないでこの恩給組合の方で負担していただくという制度でございます。そういう關係で今般法律の改正に基づきまして長期給付のベースアップが行なわれるということになりましてその關係の費用も当然恩給組合が負担していかばいいのだと。直接市町村の負担にはならないでその部分の費用はこの恩給組合が負担していただくという改正でございます。法律ではつきり、そういうことになりまして常識的にもここに加入しておいた市町村は關係部分の費用は直接負担しないで恩給組合に積み立ててあるからそこから支出すればいいのだと

いうことになるのでございますが、原則的にそういうことでございます。別表の改正は「東金市ほか四町衛生組合」を「山武郡市衛生組合」というふうに改めるといふのは、その組合の名称が改めらるゝためで、その名称を規約の中でも一致させるということでございます。ます。この条例の適用は四十三年四月一日から適用するということでございます。

議長（吉田勇治郎君）次に議案第五十一号

（書記朗読）

議案第五十一号 千葉県下市町村の軽自動車税の賦課

徴収に関する事務を行なう職員と  
共同設置規約の一部を改正する規  
約の制定について

調査課長（石渡東君）御説明いたします。

第三条の主事の執務場所は今までは千葉市より陸運事務所一カ所だけでございますが三月の十五日より船橋市にございまして習志野事業所が支所に昇格になりましてここにおいても千葉でやっておりますのと同じ事務を取り扱うことになりました。これは県北部でございまして習志野船橋八千代以北八市二町十村にわたるわけでございます。この三条の二にございまして習志野支所において事務を取り扱う。

第四条に移りますが千葉の陸運では二名の職員を千葉から派遣して処理していただいておりますが非常に事務量も膨大に従って事務所が二カ所にたつたということでもう一人増員しなければならぬという事態に至りまして今まで二人というのを三人に改めたいというものでございます。

それから第五条の案分率の改正でございますが、今までは地方交付税に算入されるべき軽自動車税の基準額というものが割見込まれておったそうでございますが、四十三年度から七割五分を見込むということになりまして、それをもとの税額に設すために案分率が算出されるようになっております。

第八条の削除でございますが、今までは主事や身分取り扱いに關します規定でございまして、今までは千葉市から出ておったのでございますが、千葉市に規定に従うということになっておりまして、今回は船橋から一名派遣していただくそうでございますが、千葉市の規定通りにいけませんので、これは後日検討されて成文化されるか、或いはこのままで永久にこの八条がなくなるかわかりませんが、けさほど千葉に電話を入りましたところ、果

庁に照会したところ。条文はいらないだろうという回答をいただきました。以上が改正のおもなものでございます。

議長（吉田勇次郎君）議案第五十二号

（書記朗読）

議案第五十二号 昭和四十三年六月に支給する期末手当の

特例に関する条例の制定について

人事課長（小沢正治君）議案第五十二号について御説明申し上げます。

四十三年の六月に支給する期末手当の特例を定める条例でございます。

従前もこういう時限条例をもって特例で実施して参ったのであります。本年は基本額が百分の百十に加えまして百分の三十を期末手当として追加支給をいたしました。その結果一般職員といましては百分の百

四十になりまして、それに基本額は違ひますけれども、  
勤勉手当率が百分の三十あるわけでございます。  
従いまして、こゝと合わせまして、一応百七十という率に  
なるわけでございます。こゝ率で支給をいたしたい  
ということでございます。

その同率を市議会議員にも支給をいたしたい。  
さらに市長助役、収入役及び教育長に対しても、  
こゝにならしまして、百七十として、六月の期末手当を決  
定したいというものでございます。

議長（吉田勇治郎君）議案第五十三号

（書記朗読）

議案第五十三号 非常勤、特別職、職員にかかわる報酬  
及び費用弁償に関する条例の一部を  
改正する条例の制定について



・選挙管理書記長（鈴木カ君）議案第五十三号につきまして御説明申し上げます。

本案につきましては公職選挙法並びに公職選挙法の  
準用規定によりまして行なわれますところの各種選挙  
の執行の際の投票、開票の管理者、それから立会  
人等に支給する報酬の額につきまして今回改定を  
しようというものでございます。この改定につきましては  
国会議員の選挙等、施行の基準に関する一部を  
改正する法律が去る四月十五日公布、当日施行されま  
してこれに伴いまして本市の非常勤の特別職の職  
員にかかわる報酬及び費用弁償に関する条例のうち  
第二条の報酬額の規定につきまして列表第二号表  
にございまして、日額報酬表の区分に掲げてございま  
すところの投票管理者、開票管理者並びに選挙

長々報酬額を法律改正によりまゝところゝ基本額  
通り現行千二百円を千五百円に改定いたしまゝて  
投票立会人、開票立会人並びに選挙立会人につま  
まゝては現行千円を千二百円にそれぞ改定し  
まゝというもござります。以上でござります。

議長（吉田勇治郎君）議案第五十四号

（書記朗読）

議案第五十四号 千葉県競輪組合の設置に関する協  
議について

財政課長（長谷川広治君）第五十四号について御説明を申し上  
げます。

本案は千葉県八市競輪組合及び千葉県新市競輪  
組合二は十一市で構成をいたしてあります。これを  
統合いたしまゝて自転車競技の施行を円滑に行

ほう。ここのうう目的のために提案をいたした次第でございますが、一部事務組合は御承知のとおり、地方自治法二百八十四条の第一項の規定で設置をいたすことになつておるわけでございます。

規約の内容に触れますが、第一条は名称を千葉県競輪組合というふうに称するということになつております。

これは今まで千葉県八市競輪組合と申しまして、館山市を含めた八市、それから新市が十一市で二つの競輪組合でそれぞれ競輪を施行いたしたわけでございますが、これを統合いたしまして、名称を千葉県競輪組合というふうに称したいということでございます。

第二条組合を組織する市でございますが、銚子から茂原市、これが今までの八市競輪組合の構成市でございます。それから、成田市から以下八千代市までが

十一市、二市が新市競輪組合の構成市でございまして、二市を十九市をもつて組織をいたしたいという予定でございまして、なお、その他に千葉市と松戸市がございまして、千葉市は自己で競輪を開催いたしておりまして、松戸市は地元に競輪場があるということと、特別に競輪開催権を持っておりますので、この二つは除いてございまして、

第三系の組合の共同処理をする事務及び四系の組合の事務所、位置は旧八市の競輪組合の規約とかわりありません、御了承をいただきます。

第五系が議会の組織及び選挙の関係でございまして、旧八市につきましては一市二名宛を選ぶということと、ございまして、新一市におきましては各市一名宛を選んで競輪組合議会の議員をいたしたいということと、

います。

これは今まで八市の方ではやはり新市と同一議員一名でございまして、統合の際に二名ということにいたしましたわけでございます。

第六条議員の任期でございます。第七条が執行機関の組織、第八条が執行機関の選任及び任期、第九条監査委員の設置関係でございますが、いずれも八市競輪組合の前、規約と相違ございせんので、説明は省略いたします。

第十条が利益金の配分関係でございますが、非常に細かく記載いたしておりますが、第一項は統合を機会に新市分に対しまして、果から松戸競輪の開催権一回が譲渡されたわけでございます。四十三年度の残余の期間につきまして、松戸競輪一回分開催いたします。

わけでございますが、その利益は十一市に均等に配分をするということでございます。

それから旧八市分についてはまだ残余の開催回数があるわけでございますがそれは従前の例によりまして旧市の古い規約によつて配分いたしていく。

それから二項が四十四年度以降の利益の配分方法でございしますが、簡単に申しますと四十三年度の実績配分額は各新市及び八市とも確保する。それ以上利益があった場合にはその利益の二分の一を旧八市で均等に配分し、残りの二分の一を十一市で均等に配分をする。そういう趣旨でございます。

第十一条の利益金と配分時期、これについては旧八市の競輪組合の規約と相違ございません。

第十二条が欠損の補てんの方法でございますが、旧八市が

方は欠損を生じたときに均等で埋め合わせをしていくということになつております。

第十条の利益金の配分が若干違います。欠損を生じたときには利益金の配分の例によつて補てんをしていくのだという事でございます。

十三条欠損補てんの時期、これは旧八市の規約と相違ございません。省略いたします。

十四条が経費の支分方法でございしますが、八市の前の規約は各市均等に分賦するという事になつておたわけでございますが、新しい条文では組合の経費は利益金より支分をするというふうに新しく改正をしようという事がございます。附則は四十四年一月一日から施行するということ案でございます。

参考までに四十四年度以降の利益金関係について申

一上げますと大体今までの八市は六回競輪の開催権を持っておたわけでございます。

新市が三回持つておたわけでございます。

現在までの禍去り伸ぶ率、そういったものを<sup>計</sup>算をいたしますとこの統合によつて四十四年度では約七十五万程度のものが減額と申しますか、少なくなるのではないかとこの予想をいたしております。

これについては適当な方法で果は初年度より利益の減分については財政措置をいたしたいという考え方でござります。

新市旧市が均等の利益を受けるといふ時点は今この計算方法でやていきますと昭和八十二三年時分になるのではないかとこの予定を持っております。以上で説明を終わります。



。議長(吉田勇治郎君)議案第五十五号

(書記朗読)

議案第五十五号 館山市印鑑条例の一部を改正する条

例の制定について

。市民課長(羽山房雄君)議案第五十五号について御説明いたします。本市の印鑑条例の第二に印鑑の届出といて、  
このように規定されております。

第二条「市内に居住し住民登録法(昭和二十六年法律第二百十八号)または外国人登録法(昭和二十七年法律第百二十五号)により登録されているもので印鑑を登録しようとする者は市長に届出なければならぬ」と規定されておりますが、昭和四十二年十月十日の法律第八十一号で住民基本台帳法が公布施行になったわけでございますが、同時に従来の住民

登録法が廃止になりまして、この条文を本案のように改めようとするものでございまして附則におきまして適用の年月日を昭和四十二年十一月十日としようとするものでございまして、よろしく願います。  
議長（吉田勇治郎君）議案第五十六号

（書記朗読）

議案第五十六号 館山市公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

教育委員会庶務課長（干場伊左門君）議案第五十六号について御説明申し上げます。

この条例の改正は、国家公務員等、災害補償制度にならしまして幼稚園の学校医等の公務災害補

償制度を改善したいと存するものであります。

この条例改正の概要を申し上げますと、まず第九条の障害補償、これが第一種障害補償とあり、また十の障害年金に改め、十一の第二種障害補償を障害補償一時金に名称を改める。そうしてその年金であるところの障害補償の支給範囲を障害等級を第一級から、第三級まであったのを第七級まで拡大して、障害補償一時金の方を第九から第十四級までにしたということであります。

それから第二番目は遺族補償、遺族補償はすべて一時金であったものを原則として遺族補償の年金に改める。そうして遺族補償の年金を受けることが出来る遺族がないときに限って遺族補償の一時金を支給することが出来ることとしたというのであります。

それから第三番目は打ち切り補償を廃止して療養補償と休業補償を継続して行なうことにしたということでございます。

それから四番目が職員や給与に関する条例改正等に伴いまして補償基礎額を引き上げたということでございます。第四条にありますところの配偶者が二十円となつておるのを三十三円、十八才未満の子供二十円を三十三円、それと別表の改正でございます。それと別表の金額が算出してあります。それを改めたものでございます。

それから第五番目は附則の第五条で船員保険法厚生年金保険法及び国民年金法による給付の調整その他必要な経費措置を定めたものでございます。この施行期日は公布の日から適用は四十二年十二月一日

から適用するということでございます。よろしく願ひいたします。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後一時四十七分 休憩

午後二時十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
議事進行上おはかりいたします。

自後の案件について朗読を省略し、ただちに説明を求めたいと思いますが、こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よろしくさう取りはからいます。

日程第九議案第五十七号について、説明を求めます。  
保健衛生課長(岡島憲治君) 議案第五十七号について御説明申し上げます。

本案は本年三月三十日に地方税法の一部改正が行なわれ、ましてそれに基いて法令準則に基いて改正しようというものであります。

当市、条例の第三条に「前条の所得割額は当該年度分として納付した、または納付すべき市民税の所得割額を課税標準」とし、二に第五条の税率を乗じて算定する。第五条に所得割として「保険税の賦課総額の百分の二十二に相当する額を第三条に規定する市民税の所得割額、総額で除した得た数」という規定があったわけでございます。

これは税率という考え方がありまして、こういう計

算方法によつて出たものが税率というふうに言われておるわけでございます。こゝをそのもつずばりで判定して、  
「こゝう・こゝう・こゝう」ふうな考えのもつでございませう。

従いまゝ第三条中、前条の所得割額は当該年度分として納付したまたは納付すべき市民税の所得割額に改正をいたさうというものは「百分九百二十一」、  
こゝういうふうに判定をするということでございます。

それで市民税のうち所得割額は古い条例第五条の計算方法によつて算定をいたすわけでありませうが、その結果、市民税所得割額の百分九百二十一になる。こゝう  
いうことでございませう。

それから第四条資産割額をきめたものでございませうが、  
同趣旨に従いまゝ計算の結果、百分九十四になる  
というものでございませう。

第五条でございすが、被保険者均等割額でござい  
ますが、旧条例におきましては、保険税の賦課総額の  
百分の四十一に相当する額を当該年度の初日におけ  
る被保険者の数で除して得た数に、このようにする  
るわけでございすが、このことによりて計算した  
結果、千六百八十円とする。このことに相なるわけで  
ございします。

第五条の二でございすが、世帯別平等割でございすが、  
これも旧条文では「保険税の賦課総額の百分の十  
七に相当する額を当該年度の初日における被保険  
者の属する世帯数で除して得た額に、このように計算  
方法によりて出た額が二千三百三十二円と相なりま  
すので、そのように改めたい」ということでござい  
します。

それから九条でございすが、旧条例では「第三条に規



定する課税標準が確定しないために当該年度分の  
国民健康保険税額を確定することができない場合には  
その確定する日までの間において到来する納期において  
徴収すべき国民健康保険税に限りし云々ということで  
ございますが、課税標準という言葉が三条中にな  
くなりましてたので、第三条及び第四条に規定する税率  
に改めようというもの。こゝは御案内のように市民税  
その他ものが確定しないということでございます。  
それから確定しないために第一期の国民健康保険税  
の徴収につきましても前年度の六分の一を徴収していた  
わけでございますが、その他に前年度の最後の納期  
の額でも徴収することができるということ。同じようなこと  
でございますけれども、それがかわりましたのが、当該年  
度の納期の数で除いて得た額の下にその者の

前年度の国民健康保険税の最後の納期の税額に相当する額に二小を加えようとするものでございます。第十二条におきまして所得十一万以上の者で今まで被保険者一人について「四万円」の減額があったわけでございますが、それが「四万五千円」に改められたわけでございます。こゝは地方税法の改正によるものでござい  
ます。従いまして、それだけ控除額といえますか。減税をする所得の伸びに反したことでございますけれども、今までたとえば二人世帯の場合に所得十一万プラス四万・十五万までは免税対象になっておったものが、今年度は十五万五千円、こういうふうになるものでござい  
ます。さらに同条第二項を削ると申しますのは、改正いたしまして、たものの関係で条文整理でござい  
ます。

この規定は四十三年度分の国民健康保険税から適用  
して昭和四十二年度分までは旧来例による。こういう  
わけでございます。

議長（吉田勇治郎君）議案第五十八号について、説明を求めます。  
財政課長（長谷川広治君）議案第五十八号について御説明を申し  
上げます。一般会計の補正予算の第一号でございますが、  
第一号に示してございまして、今回六百三十八  
万二千円を追加いたしまして歳入歳出それぞれ十億六千  
七百十三万円といたして、予定でございます。この内容  
といたしましては純追加額が八百七十六万七千円でご  
ざいます。減額をいたしまして額が二百三十八万五千円  
でございまして、差し引き追加額が六百三十八万二千円と  
いうことに相なります。

今回の追加額の中に特定財源として百五十五万ございます。

ので、残余の四百八十三万二千円を一般財源に求めて編成をいたしてございます。

追加をいたします。内容につきましては三ページから四ページまでの第一表歳入歳出補正予算でございまして、内容の細かい面につきましては五ページから七ページまでの明細書により御説明を申し上げますので、御了承を願います。

企画課長（谷貝茂生君）ハページニ款統務費大目企画費でございまして、

今回補正をお願いしております三十万でございまして、これは広域行政の關係のみでございまして、市町村行政の広域化の要請に対処いたしまして、広域行政計画の策定、広域行政を具体的に推進するために、市町村が相互に連絡調整をはかつていくということで、昨年十月二十五日

に安房郡市広域行政連絡協議会が発足いたしまして市長が会長で目下専門部会を開いて計画の策定に當りおるわけでございます。

当然今後、問題といたしまして広域行政の上から適正規模の町村があり方というたとえば合併問題等も一に考えらるわけでございますので、それらの基本的な方針を計画するためにそれらの関係費といたしまして今回旅費として十二万需用費として十八万計三十万の補正をお願いいたしまして、これによりまして本年中に何とか基本的計画を取りまとめたいということをお願いいたします。

秘書課長(小倉澄男君)十一日市史編纂費、並に十二日結婚相談費につきまして御説明申し上げます。

市史編纂は先般、当初予算におきまして御決定を  
いただきまして、ただちに活動を開始いたしております  
が、それに関しましていろんな資料収集並びにそうい  
うものを整理さらに編纂執筆いたしていただく方々  
手助け等をいたします。職員を実は要請しております  
— なんですが、市の中におきまして都合がつかません  
で、臨時用人を一名お願いいたしまして、これに充てたい  
— という事で臨時用人の賃金一名分を計上— た次  
第でございます。二十二万八千円でございます。

それから十二目の結婚相談費でございますが、これは年間  
の総額九十九万九千円、先般の定例市会におきまして結  
婚相談所の相談所長並びに相談員の方の報酬を  
条例におきまして御決定いただきまして、月額三万  
円、相談員三千円、その報酬等先般非常に早急で

ございまーたので、とりあえず、条例のみを制定、ただいた  
わけてございまーて、予算の計上がございませんでーたらう。  
現在、PRを主眼にいたいまーて、この仕事を進めておる  
現状でございしますが、そこにかかりまする経費、報償費、  
旅費、需用費、役務費、備品購入費等、内容について  
は説明欄で御了承願、いたいと思ひます。よろしく  
お願いいたいます。

庶務課長（山口実君）五項統計調査費について説明申  
—上げます。今回補正額といたいまーて、八万五千円  
計上いたいまーた。

三目漁業統計調査が八月一日現在で行なわれ、商業  
統計調査が七月一日、七目の就業構造調査が七月  
日に行なわれます。関係上、当初予算に見込んでなかつ  
た委託料が決定いたいまーたので、おのおの不足分を



ここに計上したわけでございます。補助金として参るものが七万円、一般財源として一万五千円でございます。使用する節につきまゝでは、それぞれ説明欄により御了承いただきます。

・福祉事務所長（池田亮山君）第三款民生費の補正予算に  
つて御説明申し上げます。

児童福祉総務費の今回の追加九十万でございます。

十五節工事請負費でございます。五十九万の追加をお願いしてございますが、これは八幡青年館周辺に児童遊園地を設置したい。これに要する経費が四十万なおその他十万でございますが、当初予算におきまして三十万円予算計上でございますが、県の補助の交付要項の改正に伴いまして一箇園地に対してまして四十万円という線が出て参りました。この不足分十万円、合わせまして五十万の



補正という事でございます。いずれも果費が半額、とい  
うことでございます。

十九節の負担金補助及び交付金でございます。四十万お  
願いするわけでございますが、スポーツ少年団本部の補  
助金として計上したわけでございます。

スポーツ少年団の本部が去る三月十五日に結成されました  
ので、二小に対する助成をいたしまして、青少年の健全育成  
の一助といたしたい。かような考えでお願いするわけでござい  
ます。以上でございます。

衛生施設課長（大嶋重義君）四款衛生費について御説明  
申し上げます。

今回七十一万の追加をお願いしたわけでございますが、二小  
は藤原の尿処理場におきます尿の分解促進剤  
プリンチムという薬でございます。この薬を購入いたした

たいというものでございます。こゝ薬剤でございますが、こゝは一キロ当り、四百五十円でございます。こゝを七八九月三ヵ月分、処理に充てるために合計で一、六四四キログラムをこゝ額で購入して使用したいと思つております。

こゝ藤原の処理場でございますが、現在処理能力は四キロリットルの能力を持っております。こゝでございまして、こゝ最近の搬入の状況、特に四、五月の統計数字を見ましても、能力限度をはるかに上回つて投入されておるわけでございます。

四月の投入の一日平均が約四七・八キロリットル、それから五月中が一日五三キロリットルということでございます。五月は二六日の稼働日数に対して二十二日も過剰投入が行なわれている。こういうふうな実情でございます。

こゝをこのまゝ放っておきますと、まず第一に高利投入によるところの弊弊害が出てくるわけでございます。

こゝを行ないますと、御承知のようにあそこは加温式の消化方法を取って処理しておるわけでございしますが、消化タンクに三十日の消化日数を要してこゝが分解・分離が行なわれて次の第二次の処理に回わるわけでございしますが、こゝのようなことがありますと、有機物の分解と分離が不完全だということ、もう一つは引き離れた水液でございしますが、こゝの処理が十分行なわれないということ、さらに放流水でございしますが、こゝ放流水も水質を悪くする。さらに悪臭が出るわけですが、こゝが強いということ、それから処理施設の痛みを大きくするということ、それから維持管理基準にも触れてくるという場合があるわけでございます。こゝ促進剤にまゝまゝして以上弊害を除くこともできます。さらに

過剰投入によるところの処理能力の三乃至四〇%引き上げる  
 ことができるという効果を持っているわけでございます。  
 そういふような観点から今回よりあえす七・八・九の季節  
 的人ロの膨大する季節にそれを使いましてオーバー投入に  
 対する処理能力を上げていきたいと思つてございませう。  
 なお薬品でございしますが現在の処理日数は消化日数  
 は三十日でございしますが、この薬を使いますと三乃至  
 四〇%効率を上げらるゝという事は処理日数を二十日  
 前後で完全に処理できるという効果を持つておるわけ  
 でございます。

これにつきまゝては県内でも二カ所使つてあります。  
 全国的に相当数の処理場で使ひ既に実験済みで  
 データーも得てあります。県内で柏等々実情も  
 承つたわけでございますが、あそこもセニキロに対して

一キロロのオーバー投入に對してこの藥品をもつて効率を上げてゐるということも見えて参りましたので今回これを願ひようというものでございます。

土木課長(飯田治男君)次に八款土木費の補正について御説明申し上げます。

今年の四月三十日に昭和四十三年度都市計画事業の国庫補助金の内示がございまして城山公園が対象になりまして都市計画事業費補助として百二十万の内示がございましてそれに伴います事業費三百六十万とくじく園の造成事業として百万の補正を今回願ひするわけでございます。

その事業の内容を御説明申し上げますと国庫補助事業といたしまして城山公園の自動車で上ります苑道の舗装をアスファルトコンクリートで約三セメートルの間を幅

三・五メートルで舗装し、駐車場便所を一棟一〇・二平方メートル、上の児童公園に安全ブランコを一基増設するものがおもなものでございます。

それからくじく園の造成事業の方で百万円に對しましては、そのうち三十五万円をくじく園の中に南方の鳥等の禽舎を作る工事費でございまして、

六十五万円は鳥類の購入費として十八節に計上してございまして、

こゝらの補正の財源といたしましては、四項の港湾費の

一、目港湾管理費の工事請負費、これは棧橋の修繕工事の請負費でございまして、一応請負費額があまりたかしく、そのうち二十五万円を工事請負の方に充てまして、

また街路事業費の二百万円、これは本年六月五日に四十三年度の都市計画事業等の県費補助金等、

内示がございまして、北条那古線を当初では五百万円の予算を計上いたしておりましたところ、果かうの内示で三百万ということではございまずでその二百万を一応城山の舗装の方の財源にいたしたいと思います。あと事務費、関係は給料、需用費等は都市計画総務費から流用いたしたいと思います。

以上で土木費の説明を終わります。

。教育委員会庶務課長(干場伊右衛門君)教育費について御説明申し上げます。百二万の追加でございまずが、小学校費の学校管理費十五節、工事請負費で四十五万でございまずが、これは那古小学校の照明工事でございまして、那古小学校は十四教室使用しておるでございまずが、こらうち黒板のところは三ロールの平均に満たないところが二教室、それから平均二ロールに満

たないところが十一教室という関係でございますので、この十一教室に蛍光灯を四個取り付けるということでございまして、それだけを入れますと全部の配線をなおさなければいけないということで、四十五万お願いたいわけでございます。現在十一教室にコンセント一つと電球一つ入っております状態でございます。

次に学校建設費で工事請負費三十七万をお願いいたします。これは館山小学校の便所が今までのものが、使用不能になっておりますのでございしますが、これを修理するにもやはり相当金額もかかります。場所的にも不適当でございしますので、これを今度講堂と保健室の中間に持てきまして、両方で使えるようにしたいというものでございまして、約三坪のものを考えております。それから船形小学校の用務員室、宿直室等につきま



ては三月の議会でお願ひ—もうたんですが、この敷地が非常に湿気が多いのでどうしても土盛りを必要とするという事で、その費用をお願ひ—た次第でございます。次に中学校費で二十万でございますが、これは二中の講堂の映写室の両側階段になっておりますが、これをたいらに—ま—て卓球ができるように—ま—てクラブ活動の場を広げるためでござい—ま—て、これに二十万をお願ひ—た次第でございます。よろしくお願ひ—ます。

。財政課長（長谷川広治君）以上で歳出の御説明を終ります。歳出追加総額で六百三十八万二千円に相なります。従い—ま—て総額で十億六千七百十三万円ということになります。引き続き—ま—て歳入について御説明申し上げます。

歳入のうち九款の国庫支出金、十款の県支出金におきま—ては、それぞれ今回追加をいた—ま—した事業額により、そ

いぞい補助の内定。或いは決定をいたすも、その対応する金額でございます。その内容は説明欄により御了承をいただきます。総額百五十五万の特定財源というところでございます。

今回市税といたしまして固定資産税におきまして二百八十四万二千円を増加いたします。予定でございます。固定資産税につきましては大部分が賦課調定をさしてあります。二目の国有資産等所在市町村交付金及び納付金につきましても、内示がございまして、予算額よりも八十万程度増額の見込みでございます。今回八十万円を追加をいたしまして、合計額が千六百六十七万一千円ということになっております。

正規の固定資産税におきましては現在、調定額から考えますと、あと配分が二百十萬程度見込めま

すので、こゝろ九七%程度弱を考へまゝて、今回予算計上  
額が二百四十二万円ということにいたつたわけでございます。  
十三款の繰り越し金につきまして五月三十一日の出納関  
鎖日を終りまゝて、現在数字の検算中でございます。  
が、約百四十八万余円、予算計上額よりも増加をいた  
してゐる見込みでございます。で、今回財源関係から  
百四十八万円計上いたつた次第でございます。繰り越  
し金は当初予算に合わせて二千七百九十八万円予定  
でございます。

十六の繰り入れ金は千葉県漁業振興株式会社出資  
金、繰り入れ金として五十一万計上いたしております。

これは昨年ですが、千葉県漁業振興株式会社が解  
散をいたしまして、出資をしております。各市に対しま  
して、出資金の返還をいたしてございますが、今回五

十一万円の現金収入がございまして、たうで受け入れをいたしたわけでございます。以上が歳入の説明でございますが、総額歳出同額六百三十八万二千円ということになりまして、歳入の合計額も十億六千七百十三万円ということに相なる次第です。以上で一般会計の説明を終わります。

議長(吉田勇治郎君) 議案第五十九号についての説明を求めます。

商工観光課長(山田俊康君) 議案第五十九号について御説明申し上げます。

熊山市ユースホステル特別会計の補正第一号であります。

今回お願いいたしますのは、六十五万円の追加、歳入歳出五百七十六万四千円としたいというところでございます。

営業費の中に六十五万補正をお願いいたしまして、工事請負費であります。炊事場の改修が二十五万、便所等

改修工事、便所改修工事となっておりますが、便所等  
でございます。四十万願ひてございます。

この春になりまして便所の配管関係がつかまつてしまつて  
にっちもさっちもいかなくなつてしまつて、ユース・ホステル  
建物自身、県営のものでありますので、県にも強く要  
望しておりますが、県の方で昨年実施いたしまして、水銀  
灯工事、それから物置の一部改修等はできるではうけ  
れども、便所の改修はできないから市の方でやってくれといふ  
ことで、県の方で部分的にはできるけれどもどうしても全  
額県費というわけに現在の状況でいかないので、市の方で  
考えてくれといふことで、ここにお願ひした次第であります。

なお従前からユース・ホステルの経営については繰り入れ金等、  
予算をお願ひしたりして困難でありまして、けれども本  
年度は現在の見込みで百二十四万程度の繰り入れ金を

見込んでおります。そううちう六十五万を今回財源にいて  
こから炊事場・便所等う改修工事をお願いしようとい  
うものであります。

議長(吉田勇治郎君)以上で説明を終りました。

こから各議案の内容審議を行ないます。

議案第五十号についての質疑を求めます。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本案は原  
案通り可決されました。

日程第三 議案第五十一号についての質疑を求めます。

御質疑ございませんか。ーなしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異

議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り可決されました。

日程第四 議案第五十二号についての質疑を求めます。

御質疑ございませんか。――なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よて本案は原

案通り可決されました。

日程第五 議案第五十三号について、質疑を求めます。

御質疑ございませんか。――なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よて本案は原案通り可決されました。

今日の会議はこゝにて延会といたします。

次会は六月十九日午前十時開会と。その議事は陳情書、議案第五十四号乃至議案第五十九号及び追加議案の審議といたします。

午後二時五十一分 延会

本日の会議に付いた事件

一 報告第一号 乃至 報告第四号

一 議案第五号 乃至 議案第五十九号 内容説明

一 議案第五号 五一号 五二号 五三号 内容審議

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石 蔵

伊賀 多朗

藤田 益 治

磯 辺 博

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏 博

小柴 孝

山田 教 宇

遠山 三不子

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

関 武夫

小澤 恵太郎

飯田 義男

田中 祿郎

田村 源治郎

秋山 大三郎

安沢 徳順

望月 照正

鈴木 市蔵

山口 康

欠席議員

なし

